

心理支援に関する理論と実践

[講義・演習] 第1学年 前期 必修 2単位

《担当者名》 森 伸幸 今井 常晶 生田 倫子（非常勤講師） 小沼 陽子（特別講師）

【概要】

公認心理師の業務に必要な心理支援の代表的な方法である、認知行動療法、家族療法、精神分析の理論と実際を理解する。

【学修目標】

- 公認心理師の業務に必要な認知行動療法の理論と実際を理解する。
- 公認心理師の業務に必要な家族療法の理論と実際を理解する。
- 公認心理師の業務に必要な精神分析の理論と実際を理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	認知行動療法とは 1	認知行動療法の背景となっている理論を学ぶ。	森 伸幸
2	強迫症へのCBT 理論と実際	強迫症への認知行動療法について理論と実践を学ぶ。	森 伸幸
3	不安症へのCBT 理論と実際 1	パニック症へのCBTについて、理論と実践を学ぶ。	森 伸幸
4	不安症へのCBT 理論と実際 2	社交不安症へのCBTについて、理論と実践を学ぶ。	森 伸幸
5	うつ病へのCBT 理論と実際	うつ病への認知行動療法について理論と実践を学ぶ。	森 伸幸
6	社会的スキル訓練	社会的スキル訓練（SST）およびアサーティブネストレーニングについてその枠組みと実際を学ぶ。	森 伸幸
7	アンガーマネジメント	アンガーマネジメントについて学ぶ。	森 伸幸
8	心理支援の実際	HIV臨床の事例を用いて、心理支援の実際を学ぶ。	小沼 陽子
9	心理支援の実際	HIV臨床の事例を用いて、心理支援の実際を学ぶ。	小沼 陽子
10	チック症への行動療法	チック症への行動療法について理論と実践を学ぶ。	森 伸幸
11	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	多人数の人間関係を見立てるとのこと。	生田 倫子
12	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	問題を持つ人が面接に来ない状況への対応。 システミックな見立てと介入。	生田 倫子
13	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	問題を持つ人が面接に来ない状況への対応。 間接的介入の実際。	生田 倫子
14	家族療法/ ブリーフセラピーの技法	親面接への視座。使用する技法の組み合わせとシステミックな見立てについて。	生田 倫子
15	家族療法/ ブリーフセラピーの実際	親面接の実際。実際の面接技法と介入について。	生田 倫子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

森、生田、今井の3教員よりレポートが出題される。（100%）

小沼講師の日程は前期中のどこかで調整されるため9,10回目とは限らない。

【教科書】

別途指示する。

【参考書】

別途指示する。

【学修の準備】

< 授業時間外学習 >

予習（60～90分）：各回の関連キーワードについて、参考書、関連書、インターネットなどで調べておく。

復習（30分～60分）：学習内容を自分の言葉でまとめる。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

4名とも公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

多方面の専門家からの臨床経験を学び、現場での心理臨床活動能力を高める。